

単元まるごと計画「身近な人を紹介しよう」（全8時間）

単元のゴール（can-do）：家族や友だち・先生など身近な人について、その人ができることや人がらを He/She で紹介し合い、おたがいの「大切な人」を知り合う。

評価規準 3観点（国研参考資料の文型で作成）

知識・技能	Who is this? / This is my / She [He] can ... well. などの表現について理解しているとともに、身近な人について紹介し合う技能を身に付けている。
思考・判断・表現	身近な人のよさを知ってもらうために、その人ができることや人がらについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて紹介し合っている。
主体的に学習に取り組む態度	身近な人のよさを知ってもらうために、その人ができることや人がらについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて紹介し合おうとしている。

◎＝記録に残す評価（方法つき）。◎のない時間は指導に徹し、記録に残す評価は行わない。

単元の流れ 全8時間

時	紙面	主な活動	帯（毎時間のはじめ）	評価
1	SO	先生の家族紹介を聞く（This is my に会う）	歌／チャンツ	記録なし
2	SO	家族・人の言い方練習（絵カード）＋「わたしの人カード」を4枚つくる（活動3）	Small Talk①話題1（先生の家族）	記録なし
3	YT	できること（can）の復習→ He/She can ... well.＋人カードに「できること」を足す（活動3）	歌／チャンツ	記録なし
4	YT	できることリレー（活動2）＋書きWS①	Small Talk①話題2（この人、だあれ？クイズ）	記録なし
5	EC	人カード4枚から1人を選び「だれでしょうクイズ」を作る（活動1）	歌／チャンツ	◎ 行動観察（知技）
6	EC	だれでしょうクイズ大会①→中間指導＋書きWS②（人がらの文）	Small Talk②話題1（先生の友だち）	◎ 行動観察（思判表）
7	OH	きくワーク（世界の子どもの「大切な人」）＋クイズ大会②→おわりにクイズ名場面3選	Small Talk②話題2（質問を1つ返す）	記録なし
8	OH	パフォーマンステスト（紹介＋Q&A）＋単元の振り返り	なし——テストに使い切る	◎ テスト（知技・思判表）＋振り返りカード（態度）



45分の基本形と運用メモ

45分の基本形 毎時間この流れ（先生は上から順に使うだけ）

分	やること	使う教材
0-5	あいさつ・歌	—（教科書付属音源）
5-10	Small Talk／チャンツ	Small Talk台本①②
10-15	語彙の練習	絵カード
15-17	めあての確認	キーフレーズポスター
17-37	主活動 ※途中で中間指導	活動シート1～3
37-45	振り返り（1行）・あいさつ	振り返りカード

時間が足りないときは、ここを削る（優先順）

- 1. 人カード（活動3）は第2時に「だれ」と He/She まで。できることの絵は第3時へ回してよい
- 2. クイズ大会は1人1問厳守（2問目は「延長戦カード」として第7時へ）
- 3. きくワーク（第7時）は宿題にせず「できたところまで」で切る

準備物 印刷するだけ（準備5分）

- ☐ 絵カード（提示用1部＋班数分）
- ☐ キーフレーズポスター（黒板横に掲示・単元中は貼りっぱなし）
- ☐ 活動シート1～3（各時間、人数分）
- ☐ 書きワークシート①②・聞くワークシート（人数分）
- ☐ 振り返りカード（1人1枚・単元を通して同じ紙）
- ☐ パフォーマンステスト式（先生用・第8時）

配慮が必要な子へ

- ・紹介する人は家族に限定しない（先生・習い事のコーチ・きょうだい・友だちOK）——家庭の事情に踏み込まない鉄則
- ・He/She の選び分けに迷う子には「その人カード」に he/she を先に書かせておく
- ・クイズのヒントは絵＋ジェスチャーでも成立させる（英語の文の数で評価しない）
- ・写真の持参は任意。絵でも名前カードでもよい（持ってこられない子が目立たない設計に）

先生へ（この単元の勘どころ）

- ・この単元は「人を紹介する」初体験＝中学の三人称単数への最重要伏線。ただし -s の文法説明はしない（He can swim. の can 文なら三単現の -s が出ないので安心して話せる——教科書がこの並びなのはそのため）
- ・紹介される人への敬意を最初に確認する（「その人が聞いてもうれしい紹介にしよう」）——からかいの芽を初回に摘む
- ・第6時の中間指導では「ヒントの順番を工夫した子」（大→小のしぼり込み）を取り上げる